

【パネル NO.1】

パネル発表

**日本語初期集中指導教室（プレクラス）の役割と可能性
—体制作り、指導目標と指導内容、在籍校への繋ぎ等の視点から—**

（元豊橋市教育委員会）築樋 博子

（知立市教育委員会／NPO 法人みらい）越智 さや香

（浜松市立浜北北部中学校）佐々木 しのぶ

（高岡市教育委員会／NPO 法人アレッセ高岡）青木 由香

1. 本パネルの趣旨

現在進行中の文部科学省の「外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議」（令和7年度）では、「学校生活への円滑な適応を目指した初期段階における学びの場の充実について」¹⁾の検討がなされており、「学校生活への円滑な適応や、生きた日本語の習得、日本人児童生徒等との人間関係の構築、関わりを通じた社会的・情動的発達等の観点から、在籍学校・学級との交流や、一定期間の後早期の在籍学校・学級での学びへの移行が重要」と、初期段階における学びの場の充実の方向性が示されている。

その一方で、文部科学省の「外国人の子供の就学状況等調査」²⁾によれば、学齢期の子供を対象として、学校入学前や入学後初期段階に、初期の日本語指導等を集中的に行う「プレクラス・初期指導教室」（以下、プレクラスと記載）は、令和5年度136自治体、令和6年度132自治体で実施されており、微減の傾向にある。この結果からはプレクラスを開設することが、自治体にとって容易いことではないことも伺われる。

本パネルでは、愛知県知立市の早期適応教室「かきつばた教室・花しょうぶ教室」、愛知県豊橋市の初期支援コース「みらい」、静岡県浜松市の初期日本語指導拠点校「にじ」のそれぞれの教室に開設時から携わる報告者の3人が、その実践からプレクラスの体制・内容・接続の要点を整理して報告を行う。

更に参加者と共に、プレクラスの来日直後の子どもの安心と学習参加を支える教育的意義と可能性について、実施における課題も含めて検討したいと考えている。プレクラスの新規開設を検討する自治体にとっての示唆となることを期待する。

2. パネルの概要

2.1 パネル発表の流れ

当日は、以下の流れで進行する。

- ① パネルの趣旨説明
- ② パネル発表
- ③ ディスカッション

外国人児童生徒の受入れ状況や指導体制の状況は、地域や学校によって大きく異なるため、本パネル発表では、それぞれの自治体のプレクラスの「指導者や通級方法、通級期間、指導時数、指導内容」等、基本情報を提供するが、各教室を比較することは目的としていない。

各教室の基本情報を以下にまとめる。

2.1.1 知立市 早期適応教室「かきつばた教室」

知立市	地方公共団体の区分：一般市
人口	総数 72,727人（うち外国人 5,837人）令和8年1月1日現在
学校数	小学校 7校 中学校 3校
所管課	知立市教育委員会学校教育課
教室名	小学生対象「かきつばた教室」、中学生対象「花しょうぶ教室」
開設年とその後の変遷	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度（2008年）「かきつばた教室」開設 令和6年度（2024年）「花しょうぶ教室」開設
指導対象	知立市内の小中学校に転編入する日本語がわからない児童・生徒で、在籍校の校長と保護者が協議して通室を認めた児童生徒（在籍校出席扱い）
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の指導（挨拶、給食、掃除、休み時間の過ごし方、学校のきまりや服装、持ち物など） 日本語の初期指導 文字指導（ひらがな、カタカナ、漢字の読み書き） 算数（学年や個々の能力に応じた指導） 体験学習…体育、図工、生活など 全校集会や、防災訓練、学校行事（行事による）への参加
指導者	<ul style="list-style-type: none"> 指導員 5名（会計年度任用職員） フィリピン語通訳 1名
指導期間と指導時間	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学生共に、週 5回（月～金）1日 5単位時間、3カ月を目途（内、4～6日在籍校に登校）
入級のタイミング	<ul style="list-style-type: none"> 都度相談して決定
修了の目安	<ul style="list-style-type: none"> 3カ月を目途に修了 日本語到達度等の修了の目安を設けていない 修了の日は、在籍校と協議して決定
設置場所	<ul style="list-style-type: none"> かきつばた教室…知立東小学校内 花しょうぶ教室…知立南中学校内
主教材	<ul style="list-style-type: none"> 自主作成教材等
通級手段	<ul style="list-style-type: none"> 学区外の小学生は保護者（または保護者になる大人）の送迎が必要 保護者の勤務状況等に応じて、放課後子ども教室、学童の利用あり 中学生は、居住地により自転車通学・公共交通機関利用可
その他	<ul style="list-style-type: none"> 就園している外国につながる園児を対象とした語彙調査 主に未就園児を対象にした就学前指導（プレスクール）

2.1.2 豊橋市 初期支援コース「みらい」

豊橋市	地方公共団体の区分：中核市
人口	総数 363,320人（うち外国人 22,285人）令和8年1月1日現在
学校数	小学校 52校 中学校 22校
所管課	豊橋市教育委員会学校教育課
教室名	初期支援コース「みらい東」「みらい西」「きぼう」
開設年とその後の主な変遷	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度（2018年）「みらい東」（中学生対象）開設 令和1年度（2019年）「みらい西」（中学生対象）開設 令和2年度（2020年）「きぼう」（小学生対象）開設 コロナ禍「みらい西」でオンライン授業実施 令和3年度（2021年）「みらい西」に小学生の受入れを開始
指導対象	<ul style="list-style-type: none"> 日本の学校に初めて編入する日本語がわからない児童・生徒
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の注意や保健室の利用、学校での日課（給食や掃除など、遊具の使い方や遊びのルールなど、日本の学校生活への適応指導。

	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物の準備や宿題の提出など基本的な学習習慣を身に付ける指導。 ・挨拶の言葉や学習の指示語など、具体的な場面で使う日本語表現。 ・学校生活頻出語彙や、ひらがななどの文字の読み書きの学習。 ・日本の方法による四則計算の学習。 ・母国での学習経験が少ない教科の体験的な学習。
指導者	<ul style="list-style-type: none"> ・正規教員2名 バイリンガル相談員（ポルトガル語1名、タガログ語1名） 日本語相談員1名（相談員は、市の会計年度任用職員） ・多言語対応として、登録制の有償バイリンガルボランティアを派遣。
指導期間と指導時間	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は週4回（月～木）1日5単位時間、10週間、計200時間 ・小学生は週4回（月～木）1日5単位時間、8週間、計160時間 ・小・中学生共に、金曜日は在籍校に登校
入級のタイミング	・2週間ごとに入級日を設ける（編入手続き後、2週間以内に通級開始）
修了の目安	・日本語到達度等の修了の目安を設けていない。原則指導期間で修了
設置場所	・3コース共に小・中学校の中の教室
主教材	・自主作成教材等
通級手段	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は、公共交通機関を利用。隣接校在籍者は自転車通学可 ・小学生は、保護者（含：知人）の送迎
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は「豊橋市外国人児童生徒教育資料」のHPを参照。 http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/shokishien/mirai_kibou.html

2.1.3 浜松市 初期日本語指導拠点校「にじ」

浜松市	地方公共団体の区分：政令指定都市
人口	総数 777,637人（うち外国人 31,218人）令和8年2月1日現在
学校数	小学校 97校 中学校 48校
所管課	浜松市教育委員会教育支援課
教室名	初期日本語指導拠点校「にじ 江南教室・浜北教室」
開設年とその後の変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度（2022年）「にじ 江南教室」（中学生対象）開設 ・令和6年度（2024年）「にじ 浜北教室」（小学6年生・中学生対象）開設 ・令和6年度（2024年）「にじ 江南教室」に小学6年生の受入れを開始
指導対象	小学6年生・中学生年齢で初めて日本の学校に就学する生徒
指導目標	日本の学校生活適応指導及び日本語基礎指導、教科の基礎的な補習を受けることで、在籍校への円滑な適応を図る。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校生活への適応指導 健康・安心・安全に関する事項として、保健室の利用方法や交通ルール等を指導する。また、日直や清掃活動、宿題への取り組みを通して、学校生活の流れや学習習慣への適応を支援する。 ・学校場面に即した基礎的な日本語指導 挨拶や教師の指示、学習場面で頻繁に用いられる日本語表現について、具体的な場面の中で指導し、実際の使用につなげる。 ・日本語の基礎的な語彙・文字指導 学校生活で使用頻度の高い語彙及び文字（ひらがな、カタカナ、100字程度の漢字）の読み書きを段階的に指導する。 ・教科の基礎的な補習 既習の日本語語彙・表現や視覚教材を活用し、教科のことばと結び付けたJSL 数学・社会・英語の学習を通して、教科内容の理解を支援する。 ・母文化の尊重とキャリア形成

	母語や文化的背景を大切にしながら、自分の経験や強みを言語化する活動を行い、日本での学びや今後の見通しをもてるよう支援する。
指導者	<ul style="list-style-type: none"> ・教員 1名 ・外国人児童生徒教科指導員（浜松市会計年度任用職員）2名 *週10時間、週19時間 ・日本語・学習支援者（NPO）2名 *週1日2時間 ・外国人児童生徒就学サポーター（浜松市会計年度任用職員） *児童生徒の母語話者として、通級期間のみ派遣。週1日4時間程度
指導期間と指導時間	<ul style="list-style-type: none"> ・江南教室 週4日（月～木）、1日5単位時間、10週間、計200時間 金曜日は在籍校に登校 ・浜北教室 週4日（火～金）、1日5単位時間、10週間、計200時間 月曜日は在籍校に登校
入級のタイミング	2週間ごとに入級日を設ける
修了の目安	日本語到達度等の修了の目安を設けていない。原則指導期間で修了
設置場所	2教室共に中学校内の教室
主教材	自主作成教材等
通級手段	公共交通機関利用或いは保護者（含：知人）による送迎
その他	

2.2 パネル発表の構成

パネル発表は、以下のように構成される。

(1) プレクласの体制作り

- 【報告1】 知立市 早期適応教室「かきつばた教室」 越智さや香
- 【報告2】 豊橋市 初期支援コース「みらい」 築樋博子

(2) 指導目標と指導内容

- 【報告3】 浜松市 初期日本語指導拠点校「にじ」 佐々木しのぶ
- 【報告4】 知立市 早期適応教室「かきつばた教室」「花しょうぶ教室」 越智さや香

(3) 在籍校への繋ぎ

- 【報告5】 豊橋市 初期支援コース「みらい」 築樋博子

その他、令和8年4月より、富山県で初めてのプレクラスを開設する高岡市の青木由香が開設当事者の視点から、ファシリテーターとして参加する。

3. パネル報告

3.1 プレクラスの体制作り

3.1.1 【報告1】 知立市 早期適応教室「かきつばた教室」

愛知県では、平成18年度（2006年）から、就学前の外国人の子どもを対象として初期の日本語指導・学校生活指導を行う「プレスクール」のモデル事業を始めた。報告者は、平成19年度から知立市でプレスクールを行い、その後、平成20年度（2008年）から日本語教育が必要な児童生徒を対象とした早期適応教室「かきつばた教室」の担当となったものである。「就学前と就学後／地域と学校」の関りの中でボトムアップ的な開設の経験を報告する。

3.1.2【報告2】豊橋市 初期支援コース「みらい」

外国人児童生徒の集住地域である豊橋市は、長い間「子どもたちの居住地の学校での指導体制作り」を行ってきた。そのため在籍校から他校に通級するプレクラスの取り組みは遅く、平成30年度（2018年）に中学生に特化した初期支援教室「みらい」を開設した。その時点で、市内の小中学校に在籍する外国人児童生徒等は1800人を超えており、1年間の編入児童生徒数も在籍校も日本語指導担当教員も多く、教育委員会が主導し、新たな初期指導の体制作りが求められた。報告者は教育委員会のスタッフとして企画段階から関り、開設後はコーディネータとして、初期支援コースと学校と教育委員会の3者を繋ぐ役割を担ったものである。その経験から、体制作りについての報告を行う。

3.2 指導目標と指導内容

3.2.1【報告3】浜松市 初期日本語指導拠点校「にじ」

知立市では3か月以内、豊橋市では10週間200時間、浜松市では10週間200時間を目安にプレクラスの指導を行っている。文部科学省の『外国人児童生徒受け入れの手引き』で示されている「毎週2時間程度の日本語指導を2年間継続できる場合のコース設計例」と比較すると、プレクラスでは短期間に集中的な指導を行うための「指導の質と量」が求められる。報告者は、浜松市の「にじ」におけるカリキュラムの作成と教材の作成を担ってきたものである。特に小学6年生及び中学生を対象としたプレクラスの指導の目標と、それに対応したカリキュラム作成についての報告を行う。

3.2.2【報告4】知立市 早期適応教室「かきつばた教室」「花しょうぶ教室」

プレクラスでは、文字や文型といった「日本語基礎」の指導に加え、カリキュラムでは可視化が難しい生活面の適応や自立に関わる様々な活動が存在する。特に低学年児童に対する具体的な指導の報告を行う。

3.3 在籍校への繋ぎ

3.3.1【報告5】豊橋市 初期支援コース「みらい」

プレクラスでの学習が修了すると、子どもたちは在籍校に戻り、在籍校で日本語指導を受けることになる。プレクラスと在籍校では、指導の体制も異なり、継続した指導を行うためには、情報共有等の「繋ぐための支援」が必要になる。ここでは指導の分断を防ぐため行った工夫を報告する。

4. ディスカッション

ディスカッションでは、先に示した体制・内容・接続の要点について、参加者と意見を交わしながら、実施上の課題やその解決策、多様な言語的文化的背景をもつ来日直後の子どもの安心と学習参加を支える教育的意義と可能性等を検討し、プレクラスへの理解を深めたいと考えている。

ディスカッションのトピック例（参加者との議論の中で、柔軟に変更される可能性もある）

- (1) 参加者の各教育現場でのプレクラスの課題と解決策
- (2) プレクラスにおける来日直後の子どもたちの変容
- (3) プレクラスの可能性

注)

- 1) 外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議（令和7年度第10回）配布資料
【資料1】就学に関する取組について＜事務局作成資料＞文部科学省
- 2) 「令和6年度外国人の子供の就学状況等調査」文部科学省